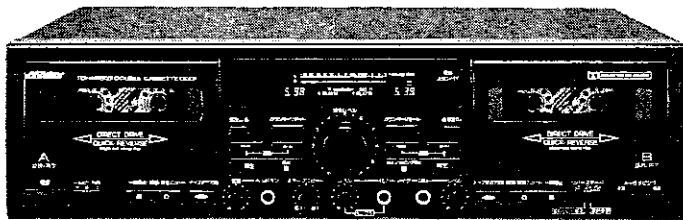


TD-WR803

ダブルカセットデッキ

取扱説明書



—お買いあげありがとうございます—

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、大切に保存してください。



この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

もくじ

ページ

お使いになる前に

主な特長	2
正しくお使いになるには	2
各部の名前	4
接続のしかた	6
コンピューリンク機能について	7

使いかた

テープを聞くには(再生)	8
・コンテニューアスプレイ(連続再生)	9
・ミュージックスキャン(自動選曲)	9
録音するには	10
・録音レベルの調節	11
・連続録音	12
・重ねリレー録音	13
・曲間にあき(ブランク)を作るには	14
ダビングするには	15
マイクミキシングするには	16
タイマー再生するには	18
リモート端子について	19

知っておいてほしいこと

著作権について	20
お手入れのしかた	21
こんなときは	22
保証とアフターサービス	23
主な仕様	裏表紙


お使いになる前に

使いかた

知っておいてほしいこと

主な特長

- テープ編集に便利なダビングデッキ
 - ・ワンタッチ操作のシンクロスタートダビング(定速/倍速)
 - ・ダビング停止ボタン付き
- ダブル録音・再生クイックリバースメカニズム
 - ・パルスサーボ DD ^{ダブルドライブ} モーター搭載
 - ・連続録音(C-90 2本で3時間の録音が可能)
 - ・重ねリレー録音(テープ片面の交互リレー録音)
 - ・デッキA・Bのコンテンツアスプレイ(連続再生)
 - ・フルロジックコントロール
- ピュアな高音再生を実現するドルビー HX-PRO ^{フル}
- ドルビー[®] B/C ^{ノイズリダクション} NR システム
 - ・MPX フィルター内蔵
- マイクミキシング可能(マイクL/R端子付)
 - ・再生ミキシング&ミキシング録音
 - ・ミキシングのレベル調節つまみ付き
- テープスピード調節つまみ(デッキA)
 - ・約±10%コントロール可能(定速時)
- その他の特長
 - ・ミュージックスキャン(前後99曲)
 - ・4ケタリニアテープカウンター(デッキA・B独立)
 - ・オートテープセレクト方式
 - ・2色FLディスプレイ
 - ・コンピリンク-3 ^{シンクロ} 端子付
 - ・カセットスタビライザー

※ドルビーノイズリダクション及びHX-PROヘッドルームエクステンションは、ドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HX-PROはバングアンドオルフセンの考案です。ドルビー、DOLBY、ダブルD記号  及びHX-PROはドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの登録商標です。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞かせください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

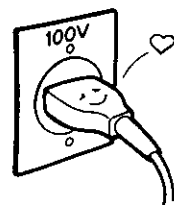
正しくお使いになるには

安全上のご注意

電源について

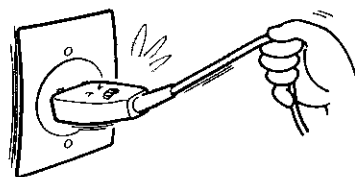
- 家庭用コンセント(AC 100V)につないでお使いください。

電源周波数は50Hzまたは60Hzのどちらの地域でもそのまま使用できます。

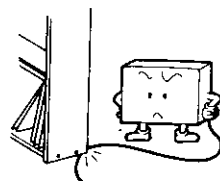


電源コード・プラグの取扱い

- 電源コードを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。コードを引っ張ったりぬれた手でさわるとショートや感電の恐れがあります。



- 電源コードの上に重い物をのせないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因になります。



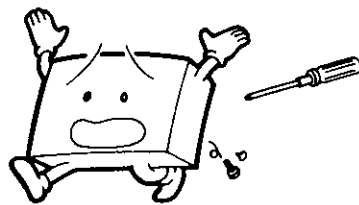
- 電源コードの継ぎ足しは、火災や感電の原因になります。電源コードやプラグの修理は販売店にご依頼ください。



- 異常や不具合が起きたら

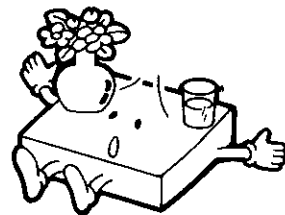
万一、異常や不具合が発生したときは、電源コードをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

キャビネットをあけて内部には触れないでください。



水などがこぼれたとき

セットの上に花瓶など水の入った容器を置かないでください。万一内部に水が入った場合は、電源コードをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。



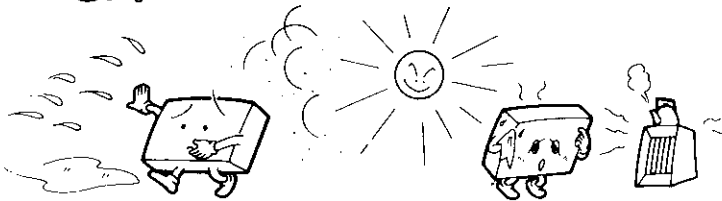
■ 電源「スタンバイ(切)」について

本機は電源を「スタンバイ(切)」にしても、わずかな電流が流れています。長期間お使いにならないときは、電源コードをコンセントから抜いておいて節電に心がけましょう。

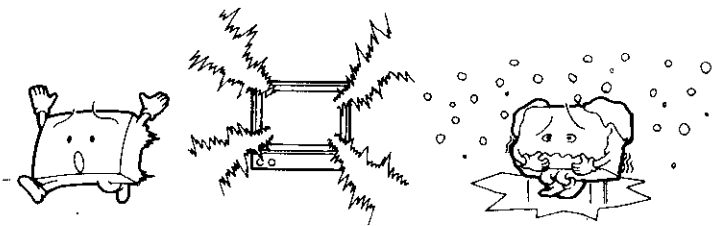
取扱い上のご注意

使用(設置)場所の環境について

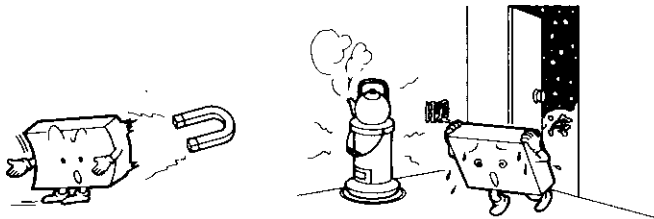
- 故障などを防止するため次の場所は避けてください。



- ・湿気やほこりの多い所
- ・直射日光が当たる所や暖房器のそば



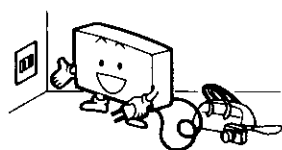
- ・アンプやテレビのすぐそば
- ・不安定な所
- ・極端に寒い所



- ・磁気の発生する所
- ・振動の激しい所
- ・寒い所から急に暖かい部屋への移動

- 長時間使用しないときは……

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、電源コードをコンセントから抜いておいてください。



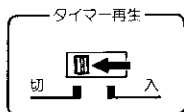
(本機は電源を“スタンバイ(切)”にしても、わずかな電流が流れています。節電に心がけましょう)

- 外国での使用は……

本機は日本国内用ですので電源電圧・電源周波数の異なる外国では使用できません。

タイマー再生スイッチ(背面)について

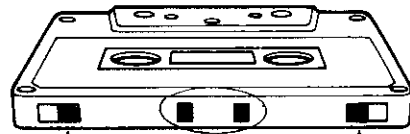
タイマー再生スイッチは、タイマーを使って「タイマー再生」するとき「入」側にします。通常は「切」側で使います。



お使いになれるテープは

- オートテープセレクト方式になっていますので、テープの種類は自動的に判別されます。

本機でお使いになれるカセットテープは次のものです。

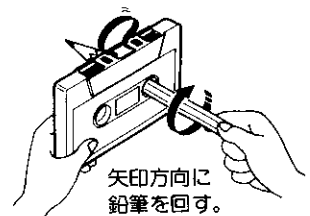


検出穴 B 検出穴 A 検出穴 B

タイプ	検出穴 A	検出穴 B
バイアス <small>メタル</small> タイプ BIAS : METAL (TYPE IV) EQ : 70 μ s	あり	あり
バイアス <small>ハイ</small> BIAS : HIGH (TYPE II*) EQ : 70 μ s	なし	あり
バイアス <small>ノーマル</small> BIAS : NORMAL (TYPE I) EQ : 120 μ s	なし	なし

カセットテープの取り扱いかた

- ・テープにたるみがあると、巻き込んだり、故障の原因になります。使用する前に右図のようにしてたるみを取り除いてください。
- ・テープを引き出したり、テープ面にふれないでください。
- ・C-120タイプのテープは薄いので、できるだけ使用しないようにしてください。



矢印方向に鉛筆を回す。

主な特長
正しいお取り扱い方法

カセットテープの保管

カセットテープはケースなどに納め、次のような場所はさけて保管してください。

- 湿気やホコリの多い所
- 直射日光が当たる所や暖房器のそば
- テレビの上やスピーカーの上など、磁気の影響を受けやすい所

■* TYPE II (ハイポジション) のテープはクローム(CrO₂)テープのことです。
■フェリクロームテープ (TYPE III) は特性が合いませんで使用しないでください。

各部の名前

— □内の数字のページに説明があります。—

電源ボタン

電源の「入・スタンバイ(切)」
ができます。

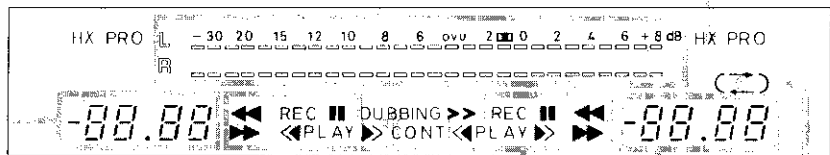
表示窓

タッチレス プロ

HX PRO 表示(デッキA)
デッキAの録音時に自
動的に表示されます。

ピークレベルメーター ⑪

HX PRO 表示(デッキB)
デッキBの録音時に自
動的に表示されます。



テープカウンター表示 ⑭ (デッキA)

通常は4ケタのリニアテープカウンターです。
選曲時は選曲数が表示されます。

リバースモード表示

テープカウンター表示 (デッキB)

メカモード表示 (デッキA)

メカモード表示(デッキB)

ダビングモード表示 ⑮

- ・定速ダビング：DUBBING>
- ・倍速ダビング：DUBBING>>が表示されます。

コンテニューアスプレイ表示 ⑨

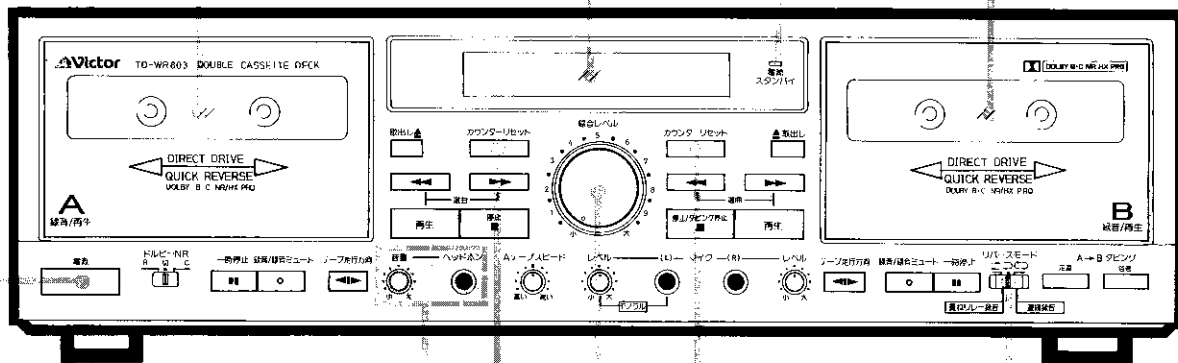
デッキA・Bの連続再生、重ねリレー録音および連続録音
のとき表示されます。

カセットホルダー(デッキA)

電源スタンバイランプ

電源「スタンバイ(切)」のとき点灯します。

カセットホルダー(デッキB)



ヘッドホン端子と音量つまみ

ヘッドホン(標準プラグ仕様)をつなぎます。
音量つまみでヘッドホンの音量が調節できます。

カウンターリセットボタン(デッキA)

表示窓のカウンター表示を「0.00」にするとき
使います。

録音レベル調節つまみ

録音時の入力レベルが調節できます。⑪
ダビング時は使用しません。

リバースモードスイッチ

- ↔：片道の録音・再生
デッキA・Bに録音可能なテープが入っ
ていると重ねリレー録音ができます。⑬
- ↶↷：往復の録音・再生
- ♻️：連続再生 ⑨
デッキA・Bに録音可能なテープが入っ
ていると連続録音ができます。⑫

カウンターリセットボタン(デッキB)

■リバースモードを↶↷にして録音してもリバース方向の巻き終わりで自動停
止します。録音中は↔が表示窓に表示されます。

■ピークレベルメーター上の0 VUや□□表示は…
・0 VU：従来のEIAJの基準レベル(160nWb/m)
・□□：ドルビー NR の基準レベル
・0 dB：IEC(JIS 新EIAJ)の基準レベル(250nWb/m)を表しています。

カセット操作ボタン(左がデッキA、右がデッキB用です)

⏸ (一時停止)

: テープ走行を一時的にとめるとき押します。
再生ボタンを押すと解除されます。

○ (録音/録音ミュート)

: 録音するときこのボタンを押しながら再生ボタンを押します。録音中に押すと約4秒のあき(ブランク)が作れます。⑭

⏮ (テープ走行方向)

: テープの走行方向を変えるとき

取出し ▲ : テープを取り出すとき

⏪ : 左方向早巻き

選曲中に押すと飛越したい曲数が設定できます。⑨

⏩ : 右方向早巻き

選曲中に押すと飛越したい曲数が設定できます。⑨

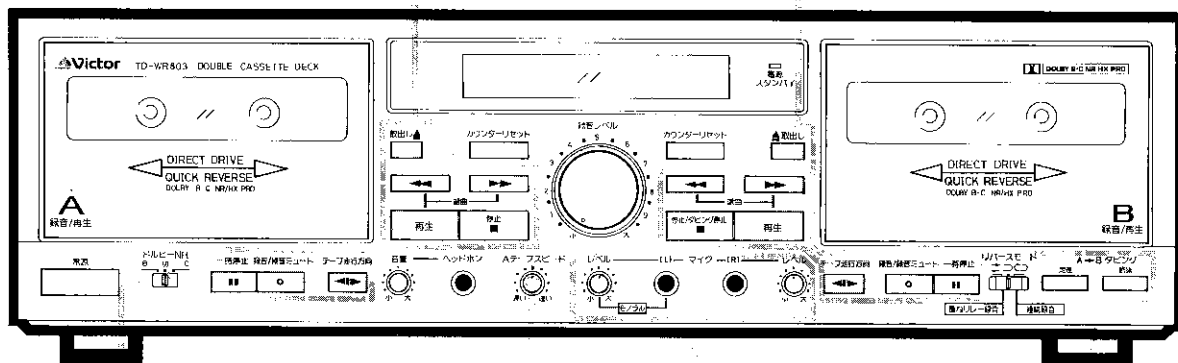
再生 : 再生するとき ⑧

⏪ または ⏩ ボタンを再生中に押すとミュージックスキャン(自動選曲)ができます。

■ (停止) デッキBは(停止/ダビング停止)

: テープをとめるとき

デッキBの■ボタンをダビング中に押すと、デッキA・Bが一緒に停止します。⑮



ノイズリダクション ドルビー NR スイッチ

テープの NR モードに合わせて使います。⑧
テープのヒスノイズ(シャーという音)を低減して録音するとき「B」または「C」に合わせます。⑩

A テープスピード調節つまみ

デッキ A で再生するときのテープ速度が変えられます。中央の■表示位置が標準速度です。

ダビングボタン(A→B) ⑮

デッキ A の音をデッキ B に録音するとき使います。

- ・定速 : 音質を重視するとき
- ・倍速 : 短い時間でダビングするとき

マイク端子とレベル調節つまみ

標準プラグ仕様のマイクロホンをつなぎます。テープ再生、ライン入力の音とミキシングできます。レベル調節つまみでマイク音量が調節できます。⑩

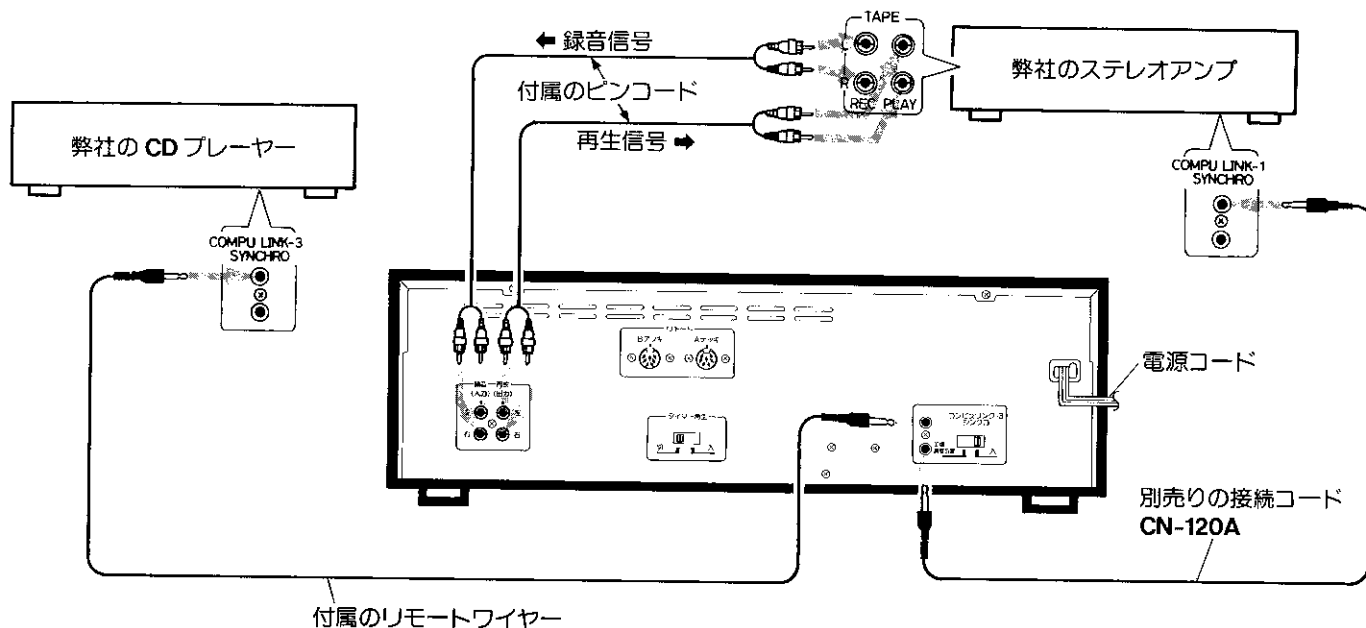
■ダビングとは…

一度テープに録音した音を、別のテープに再録音することをいいます。良い音で録音するため、ダビングはマスターテープから録音しましょう。

接続のしかた

— すべての接続が終わるまでは電源を入れないでください。—

ステレオアンプや CD プレーヤーと接続するには……

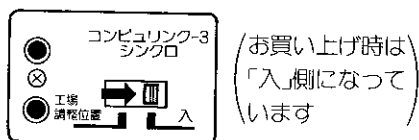


● CD プレーヤーとシンクロ録音するとき……

付属のリモートワイヤーでデッキ部と CD プレーヤーの

COMPU LINK-3 SYNCHRO (または **COMPU LINK-1 SYNCHRO**) 端子をつなぎます。

次に裏面の **コンピュリンク-3 シンクロ** スイッチを「入」側に切換えます。



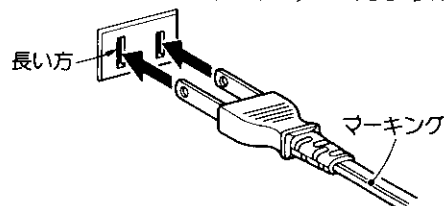
● コンピュリンク機能について

詳しくは 7 ページをご覧ください。

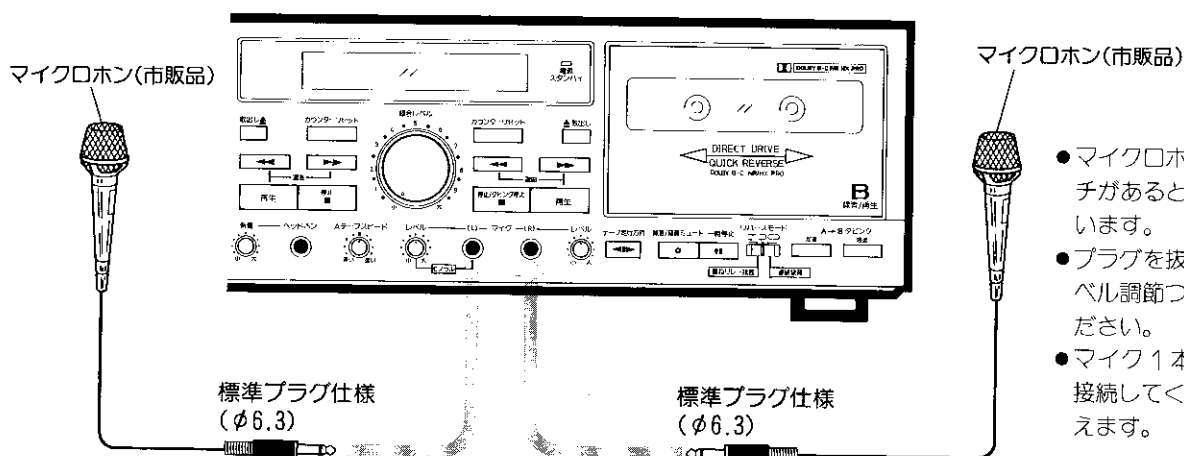
電源コードの接続について

本機の電源コードには白いマーキングが片側に入っています。これは各機器の電源コードの極性を合わせることによってシステムとしての極性を合わせ、よりよい音質を得るためのものです。

屋内配線や電源事情により異なりますが、一般的にはコンセントの差し込み口の長い方にマーキングがくるように差し込みます。



マイクの接続



- マイクロホンに **ON/OFF** スイッチがあるときは、「ON」にして使います。
- プラグを抜き差しするときは、レベル調節つまみを絞っておいてください。
- マイク 1 本の場合は、(L) 側に接続してください。モノラルで使えます。

■ 付属のピンコードは白色のプラグを左チャンネルに、赤色のプラグを右チャンネルに挿入しておきますと、接続ミスが防げます。

■ プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因になります。

■ 本機の設置について
ステレオアンプと直接重ねたりテレビのそばに設置すると、雑音(誘導ノイズ)が生ずることがあります。ステレオアンプやテレビとは間隔をとってご使用ください。

コンピュリンク機能について

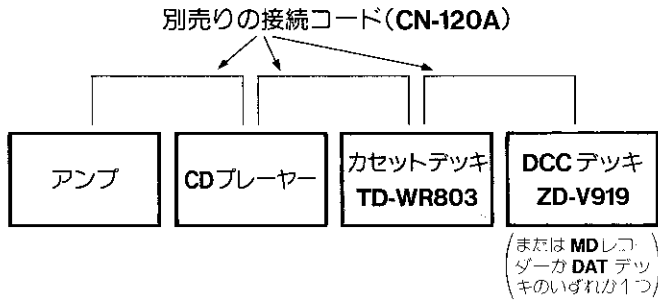
● コンピュリンクとは

単品コンポーネントでありながら、一体型コンポのような簡単操作を可能にしたのが、コンピュリンク・リモート・コントロール・システム(略称：コンピュリンク)機能です。

COMPU LINK-3 SYNCHRO または **COMPU LINK-1 SYNCHRO** 端子を持つ各機器を

相互に接続することにより、簡単操作が実現できます。

接続

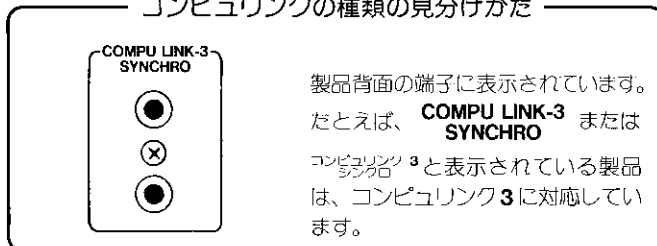


当社製品のコンピュリンクには、「コンピュリンク 3」と「コンピュリンク 1」があります。コンピュリンク 3は、コンピュリンク 1に一部の機能を追加したもので、互換性があります。

● シンクロ録音

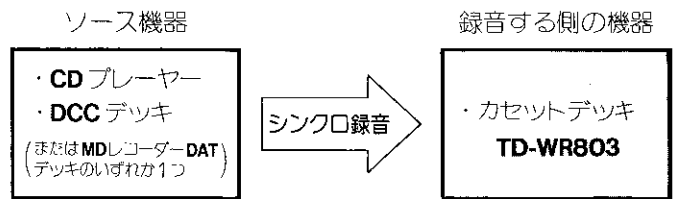
ソースの再生開始に同期して録音が自動的に開始します。

コンピュリンクの種類の見分けかた



操作のしかた

● シンクロ録音するには



例：CDプレーヤー → カセットデッキ

- 1 CDプレーヤーにCDを入れる
・プログラム順に録音したいときはプログラムする。
- 2 テッキに録音用のテープを入れる
- 3 テッキの ○ と II ボタンを同時に押して「録音・一時停止」にする
・必ず停止状態から操作する。
- 4 CDプレーヤーの PLAY ボタンを押す
・CDの演奏とデッキの録音が自動的にスタートします。

接続のしかた
コンピュリンク機能について

■ CDをプログラムすると、シンクロ録音中の曲間には約4秒のあきが自動的に作られます。

テープを聞くには(再生)

— 番号順に操作します。 —

準備

● テッキAで聞く場合の操作です。 テッキBで聞くときは2~6の操作をそれぞれテッキBで行います。

1 電源を入れる

電源

入

表示窓が点灯します。

2 テープを入れ、カセットホルダーを押して閉める

取出し

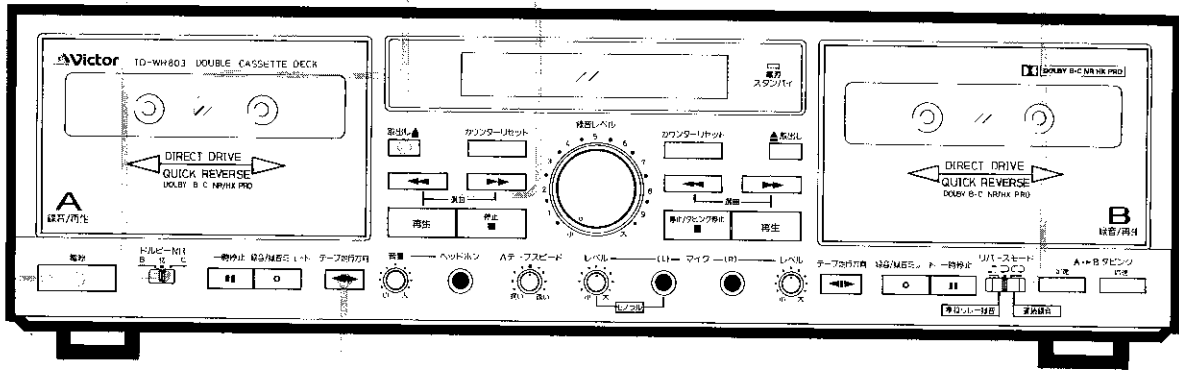
A面を手前にする。

3 テープのNRモードに合わせる

ドルビーNR

B 切 C

1 3 2 6 4



5

4 リバースモードを選ぶ

リバースモード

5 聞きたい面に合わせる

テープ走行方向

表示窓の表示

▶▶...A面 (フォワード方向)

◀◀...B面 (リバース方向)

6 押す →再生スタート

再生

表示窓にPLAYが表示されます。

●途中で再生をやめるには…
■(停止)ボタンを押します。

●再生中にもう一方のデッキを再生状態にすると…

再生中のデッキは自動停止し、後から再生ボタンを押した方のデッキの再生が始まります。

●テープの速度を変えるには(デッキA)

Aテープスピード

音程が下がる (遅い) 音程が上がる (速い)

● Aテープスピード調節つまみで約±10%まで変えることができます。
ふつうは中央の■(クリック)位置でお使いください。

●ワンタッチでテープを再生するには

カセットテープが入っているとき再生ボタンを押すと、自動的に電源が入り再生がスタートします。

●クイックリバース動作について

本機のヘッドは、カセットテープ両端のリーダーテープと磁気テープの境目を赤外線センサーが検出し、反転しています。この反転は素早く行われるため、たとえ曲の途中でほとんど切れ目の目立たない録音・再生ができます。

- テープ走行中にAC電源が「OFF」になると、テープの取り出しはできません。もう一度電源を入れてから取り出してください。
- ドルビーNRシステムを使用しないときは、ドルビーNRスイッチを「切」にしておきます。

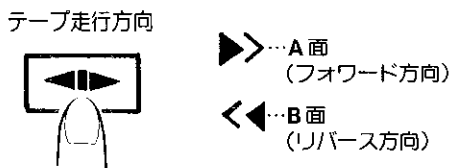
- 録音・再生をはじめてから約15秒間は、クイックリバースをしません。リーダーテープのないテープと同様にテープの巻終わりで反転します。

コンテニューアスプレイ (連続再生)

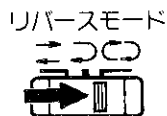
- デッキ A・B を交互にくり返して再生することをコンテニューアスプレイ(連続再生)といいます。

1 デッキ A・B にテープを入れる
(A面を手前にする)

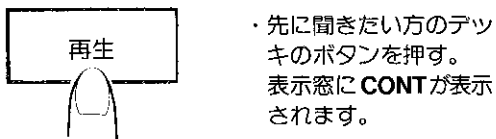
2 聞きたい面に合わせる



3 「」に合わせる



4 押す → コンテニューアスプレイスタート

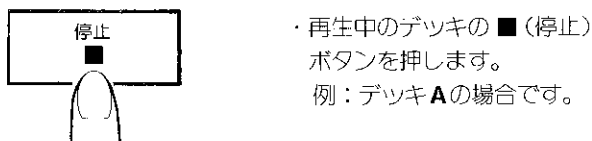


- デッキ A と B のテープ A・B 面がくり返して再生されます。
- 待機中のデッキのテープ交換ができます。

● テープの NR モードは…

デッキ A・B と同じ NR モードのテープをお使いください。
NR モードが違うときは、テープに合わせてドルビー NR スイッチを切換えてください。

● コンテニューアスプレイをやめるには…

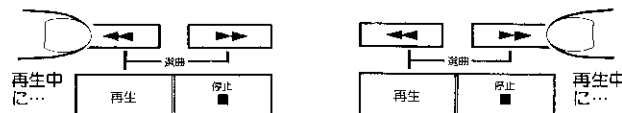


ミュージックスキャン (自動選曲)

- ミュージックスキャンとは (前後 99 曲まで可能) 曲と曲の間の何も録音されていないあき (4~5 秒以上のブランク) を検出することによって曲の頭出しをする機能です。

1 再生中に **▶▶** または **◀◀** ボタンを押す
(P 0 1 が表示され 1 曲選曲になります。)

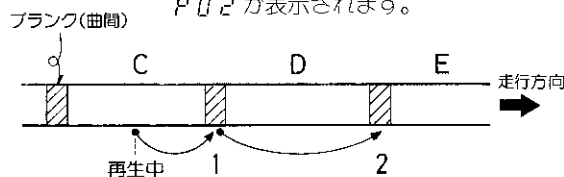
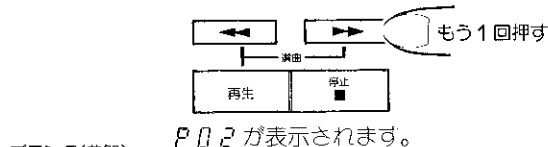
- ・今聞いている曲の頭出し (巻戻し選曲)
- ・次の曲の頭出し (早送り選曲)



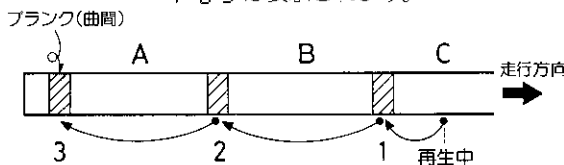
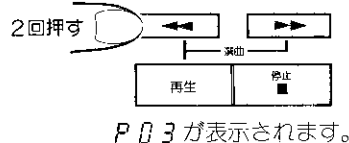
選曲中は **PLAY** 表示が点滅します。

2 2 曲以上のときは選曲中に **▶▶** または **◀◀** ボタンで曲数を設定する

- ・例：2 つ後の曲の場合



- ・例：2 つ前の曲の場合



続けて押すと前後 99 曲までの多曲選曲ができます。

3 希望する曲の頭を検出すると自動的に再生が始まります

- デッキ A・B で操作できます (ただし同時に操作することはできません)。操作例はデッキ A のフォワード方向の場合です。
- 本機はテープの走行方向に対し、順方向は早送り選曲、逆方向のときは巻戻し選曲になります。

- 次のような場合、自動選曲が正常に動作しないことがありますが、故障ではありません。
 - ・音楽でピアノツシモの部分 (音が非常に小さい部分) が長く続く曲や、曲中に無録音部分があるテープ。
 - ・曲間が短いテープ。
 - ・曲間に大きな雑音 (ノイズ) などが録音されているテープ。

テープを聞くには (再生)

録音するには — 番号順に操作します。—

準備

- カセットの誤消去防止用のツメが折れていないことを確かめます。
- リーダーテープの部分は先に送っておきます。
- デッキAで録音する場合の操作です。デッキBで録音するときは、2～8の操作をそれぞれデッキBで行います。

1 電源を入れる

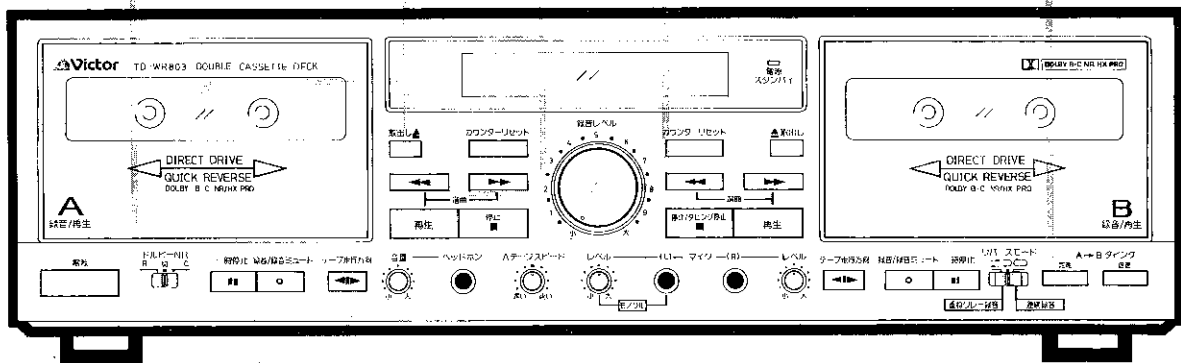
2 テープを入れる (A面を手前に)

3 NRモードを決める

4 リバースモードを選ぶ

↶ : 往復の録音
↷ : 片道の録音

1 3 2 8 7 4



6 5

5 録音したい面に合わせる

テープ走行方向 表示窓の表示

▶▶…A面 (フォワード方向)
◀◀…B面 (リバース方向)

6 録音・一時停止にする

一時停止 録音/録音ミュート

・表示窓に REC が点灯し、PLAY が点滅になります。

7 録音レベルを調節する→⑩ページ参照

・テープの種類に合わせて調節する。

8 押す →録音スタート

再生

・表示窓のPLAYが点灯になります。

ドルビー DOLBY NR システムについて

・サーというテープのヒスノイズを低減する目的で開発されたのがドルビー NR システムです。

・ドルビー NR システムの B タイプは一般普及用で、C タイプは B タイプよりノイズ低減効果が高くなっています。

ドルビー NR システムは、雑音が目につきやすい高域の部分をやや強めて録音し、再生時にその分だけ弱めて元に戻します。このとき、テープのヒスノイズもいっしょに弱めるため、音質は変化せずに、弱めた分だけノイズが低減されます。

高域だけのノイズを低減すると、中低域のノイズが目立つので、C タイプでは、B タイプよりも低い帯域からノイズ低減を行っています。

ドルビー HX-PRO とは…

高域成分を多く含んだソースを録音すると、その高域信号がバイアスとして作用するため実効的なバイアス電流が変化してしまいます。このため、低域信号のレベルやひずみが増えたり、高域信号の飽和レベルが低くなるなどの現象が生じます。

ドルビー HX-PRO は、入力信号の高域成分の変動に対応して実効バイアスが一定になるようバイアス電流をコントロールするシステムで、低域信号のレベルやひずみの変化を低減させるとともに、高域信号の飽和レベルを大幅に改善することができます。

- ・ドルビー HX-PRO は、録音時に自動的に働きます。このシステムを使って録音したダイナミックな音は、ドルビー HX-PRO のないデッキで再生しても同じ効果が得られます。
- ・ドルビー HX-PRO はノイズリダクションではありません。

■録音時と再生時でドルビー NR スイッチの位置が異なりますと音質が変わりますのでご注意ください。
■ドルビー NR システムを使用しないときは、ドルビー NR スイッチを「切」にしておきます。

■*リーダーテープにご注意
カセットテープの始めには、リーダーテープ(録音できない部分)があります。録音するときは、あらかじめ再生状態でリーダーテープを巻き取っておいてください。

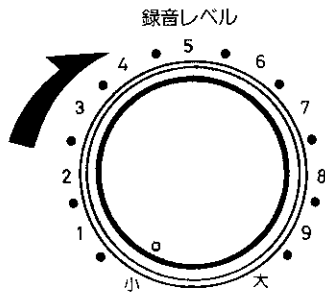
録音レベルの調節

録音レベルの調節のしかた

1 ○とII ボタンを押して録音・一時停止にする

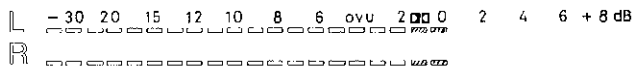
・接続したステレオアンプ等进行操作し、録音したい音を出す。

2 録音レベルを調節する



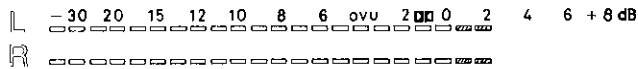
・レベルメーターを見ながら下記のように合わせる。

●ノーマルテープ (TYPE I) の場合
●ハイポジションテープ (TYPE II) の場合



一番大きい音が入力されたとき、「0 dB」が点灯するように合わせます。

●メタルテープ (TYPE IV) の場合



一番大きい音が入力されたとき、「+2 dB」が点灯するように合わせます。

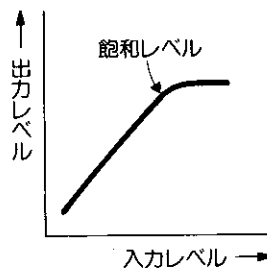
上手な録音レベルの設定とは……

お使いになるテープの飽和レベル*ぎりぎりに録音の最大レベルを合わせることで。

- 録音レベルが低すぎるとテープ特有の雑音（ヒスノイズ）が目立つ録音になります。
- 録音レベルが高すぎて飽和レベルを超えると音が割れたひずみの多い録音になります。

飽和レベルはテープの種類によって異なります。

* 飽和レベルとは……

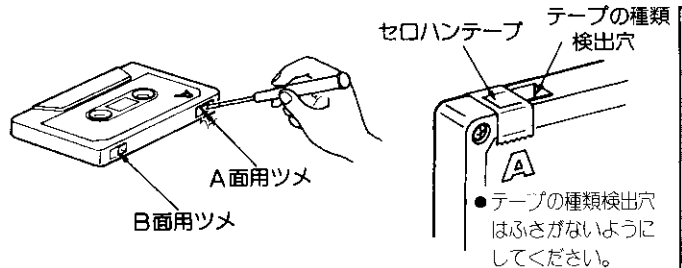


録音入力をだんだん大きくしていくと、出力はこれに比例して大きくなります。しかし、ある一定のレベルに達すると出力はふえなくなり、それ以上の入力を加えると出力ははずんでしまいます。このときのレベルを飽和レベルといいます。

大切な録音を消さないために

カセットテープには誤消去防止用のツメ(タブ)がついています。

- ツメを折っておくと録音(消去)ができなくなり、誤って消してしまうことが防げます。
- 再び録音したいときはツメの穴をセロハンテープなどでふさぎます。



録音の心得

■録音レベルの調節について
テープの種類やメーカーによって特性は異なります。
お使いになるテープや録音するソースに合わせて適度に調節してください。

録音するには(つづき) — 番号順に操作します。—

連続録音

準備

●誤消去防止用のツメが折れていないことを確認してください。(A・B面)

1 録音用テープを入れ、録音する面に合わせる

テープ走行方向

▶▶…A面 (フワード方向)
◀◀…B面 (リバース方向)

・デッキAです。

2 録音用テープを入れ、録音する面に合わせる

テープ走行方向

▶▶…A面 (フワード方向)
◀◀…B面 (リバース方向)

・デッキBです。

3 NRのモードを決める

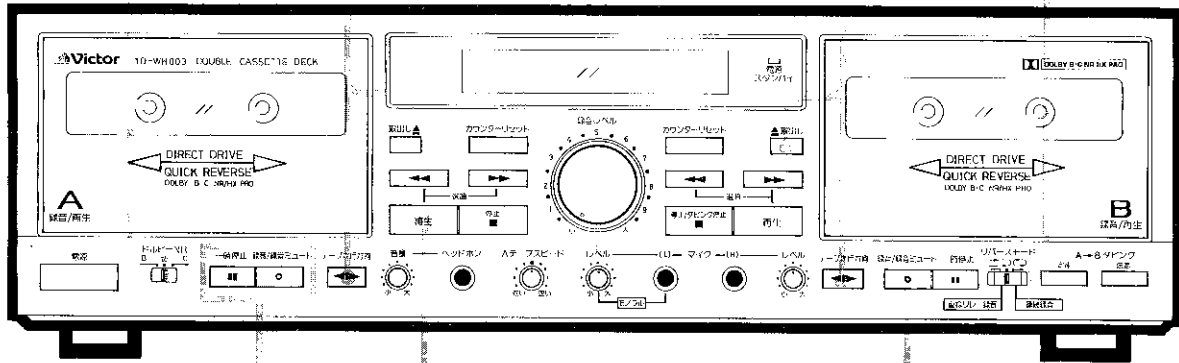
ドルビーNR
B 切 C

4 「C」にする (連続録音)

リバースモード

連続録音

3 1 2 4



5 8 7 6

5 録音・一時停止にする(例はデッキA)

一時停止 録音/録音ミュート

再生

6 録音待機にする

録音/録音ミュート

・表示窓にCONTとRECが表示され次に録音になる面の表示が点滅します。

7 録音レベルを調節する→⑩ページ参照

・テープの種類に合わせて調節する。

8 押す →連続録音スタート

再生

●デッキAのB面の録音が終わると自動的にデッキBの録音が始まります。両デッキともA面の巻き始めからスタートするとC-902本で3時間の連続録音ができます。デッキBからスタートするときはデッキBを録音・一時停止してからデッキAを録音待機状態にします。

●さらに長時間録音するには
一方のデッキが録音中に、録音が終わったテープを新しいテープと入れ換え、テープ走行方向を▶▶(フワード方向)にしたのち○(録音/録音ミュート)ボタンを押して録音待機状態にします。

●録音待機状態を解除するには
待機中のデッキの■(停止)ボタンを押します。

■録音が終わったデッキからは、テープを取り出しておくことをお勧めします。

重ねリレー録音

準備

- 誤消去防止用のツメが折れていないことを確認してください。(A・B面)
- デッキAから先に録音する場合の操作です。デッキBから先に録音するときは、5の操作をデッキBで行います。

1 録音用テープを入れ、録音する面に合わせる

テープ走行方向

▶▶…A面 (フォワード方向)

◀◀…B面 (リバース方向)

・デッキAです。

2 録音用テープを入れ、録音する面に合わせる

テープ走行方向

▶▶…A面 (フォワード方向)


◀◀…B面 (リバース方向)

・デッキBです。

3 NRのモードを決める

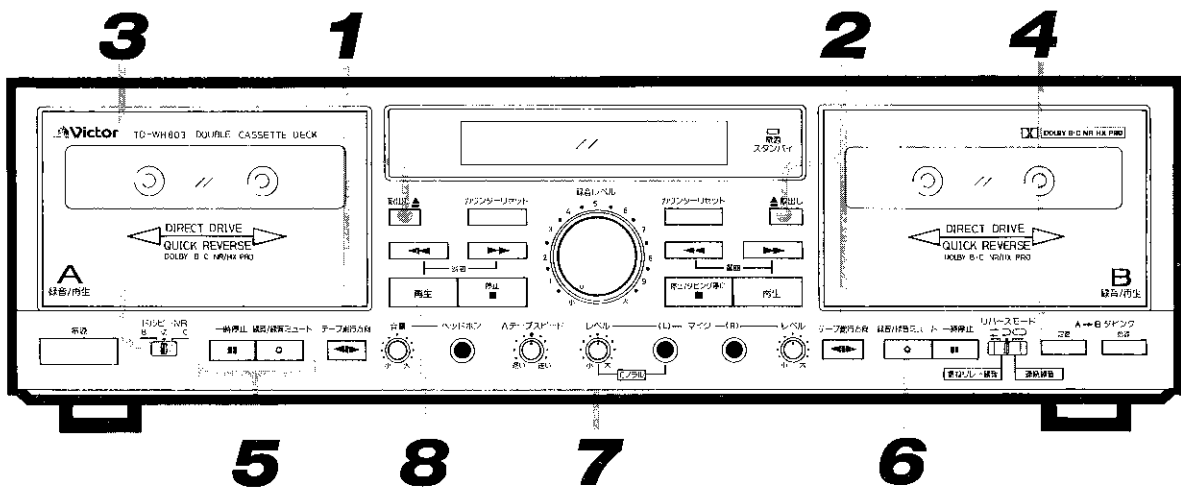
ドルビーNR

B 切 C

4 「」にする (重ねリレー録音)

リバースモード

重ねリレー録音




5 録音・一時停止にする (例はデッキA)

一時停止 録音/録音ミュート


6 録音待機にする

録音/録音ミュート

・表示窓にCONTと次に録音になる面の表示が点滅します。


7 録音レベルを調節する →  ページ参照

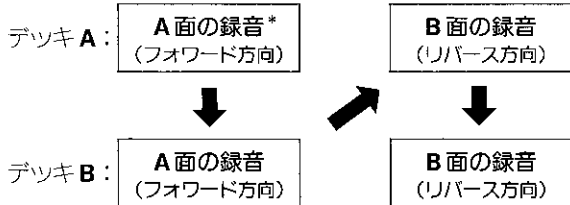
・テープの種類に合わせて調節する。

8 押す  重ねリレー録音スタート

再生

●重ねリレー録音とは

リバースモードが「」で録音中に、テープの残りが約2~3分以下になったとき録音待機中のもう一方のデッキの録音が自動的にスタートする機能のことです。録音中のデッキが自動停止するまで、同じ内容が重複して記録できます。デッキA・Bのテープの片面ずつ録音されます。



*A面を手前にしてテープを入れた場合です。フォワード方向の録音が終わると、自動的にリバース方向に反転し録音待機になります。

- 録音待機中は、次に録音になる面のテープ走行方向表示(フォワード方向: ▶、リバース方向: ◀)が点滅します。
- リバース方向で録音が終わったデッキは、録音待機状態にはなりません。またフォワード方向には反転しません。
- 重ねリレー録音時は、クイックリバース動作はしません。
- 録音が両面とも終わったら、ラベルに録音内容・順番等を記入し貼っておくと便利です。

録音する際は(し)き

■誤消去防止用のツメが折れている面への重ねリレー録音はできません。

■リレー録音は、スモールハブ(リールの直径が約22mmのもの)のテープに対応しています。リールの直径が27mm前後のラージハブのテープの場合は、テープの巻終わりまで走行したのちリレーしますので録音できない部分が発生します。

録音するには(つづき)

曲間にあきを作るには — 録音ミュート —

・録音中の不要な部分をカットしたり、曲間に適度なあき(ブランク)を作るときは、○(録音/録音ミュート)ボタンを使うと便利です。

録音中に約4秒のあきを作るには

あきにしたいところで



・「ボン」と押して離す。

・約4秒後にテープが自動停止し録音・一時停止状態になります。

録音中に4秒以上のあきを作るには

あきにしたいところで



・4秒以上押し続ける。

・指を離すとすぐにテープが自動停止し、録音・一時停止状態になります。

●4秒以下のあきにするには…

○(録音/録音ミュート)ボタンを押したのち、一時停止になる前に再生ボタンを押します。再び録音状態に戻ります。

ちょっと一言

録音した音を消すには(消去)

録音済みのテープに新しく録音すると、前の音は自動的に消えて新しい録音のみになります。

●無音テープにするには

⑩ページの録音操作で7の録音レベル調節つまみを“小”位置にして録音します。

テープカウンターの使いかた

・電源が入ると表示窓に0.00が表示されます。テープが走行すると、4ケタのリニアテープカウンターとして動作します。このリニアテープカウンターは、C-46L、C-60およびC-90ラジハブを使用したときおよその走行時間を分・秒(減算機能付)で表示します。この表示は実際の走行時間に対し、1分程度の誤差があります。C-30やC-46、C-80等ではさらに誤差が大きくなります。また同じ長さのテープでも、テープの厚みなどのバラツキで異なった時間を表示することがあります。

カウンターリセットボタンの使いかた

録音する前にカウンターをリセットしておくくと便利です。

カウンターリセット



0.00

・録音中、曲の頭のカウンター数字をメモしておきます。

■*ラジハブ：テープのリール(ハブ)部分の直径が約27mm前後のカセットテープ

マイクミキシングするには — 番号順に操作します —

ライン入力の音とミキシング録音するには

準備

- マイクをつないでおく。→⑩ページ参照
- 接続したステレオアンプ等を操作し、ミキシングしたい機器の音を出す。
- デッキAで録音する場合の操作です。デッキBで録音するときは、2～8の操作をそれぞれデッキBで行います。

1 電源を入れる

2 録音用テープを入れ、録音する面に合わせる

テープ走行方向

▶▶…A面 (フォワード方向)
◀◀…B面 (リバース方向)

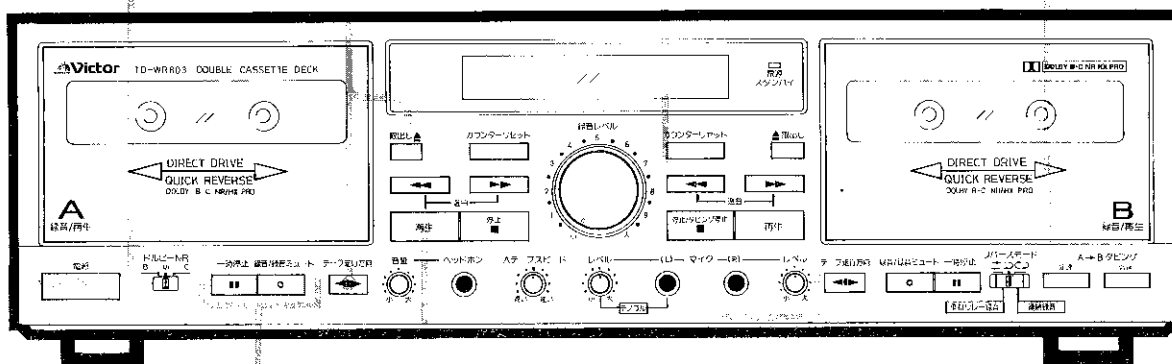
3 テープのNRモードを決める

ドルビーNR
B 切 C

4 リバースモードを選ぶ

↔ : 片面だけの録音
↶ : 往復の録音

1 3 2 6 4



5 8 7

5 録音・一時停止にする

一時停止 録音/録音ミュート

6 録音レベルを調節する→⑩ページ参照

・テープの種類に合わせて調節する。

7 マイク音量を調節する

レベル
↑
小 大

・ピークレベルメーターの点灯状態を見ながら調節します。

8 押す→ミキシング録音スタート

再生

●マイクの音だけ録音するには…

上記6の操作のとき、録音レベル調節つまみを“小”位置にして録音するとマイクの音だけ録音することができます。

●マイクが1本の場合は…

(L)側の端子にマイクを接続してください。モノラルで左右のチャンネルに入力されます。

●拡声器として使うには…

録音・一時停止の状態にしてマイク音量を適度に調節してお使いください。録音レベル調節つまみを“小”位置にするとマイクだけの音になります。

●途中でミキシング録音をやめるときは…

停止

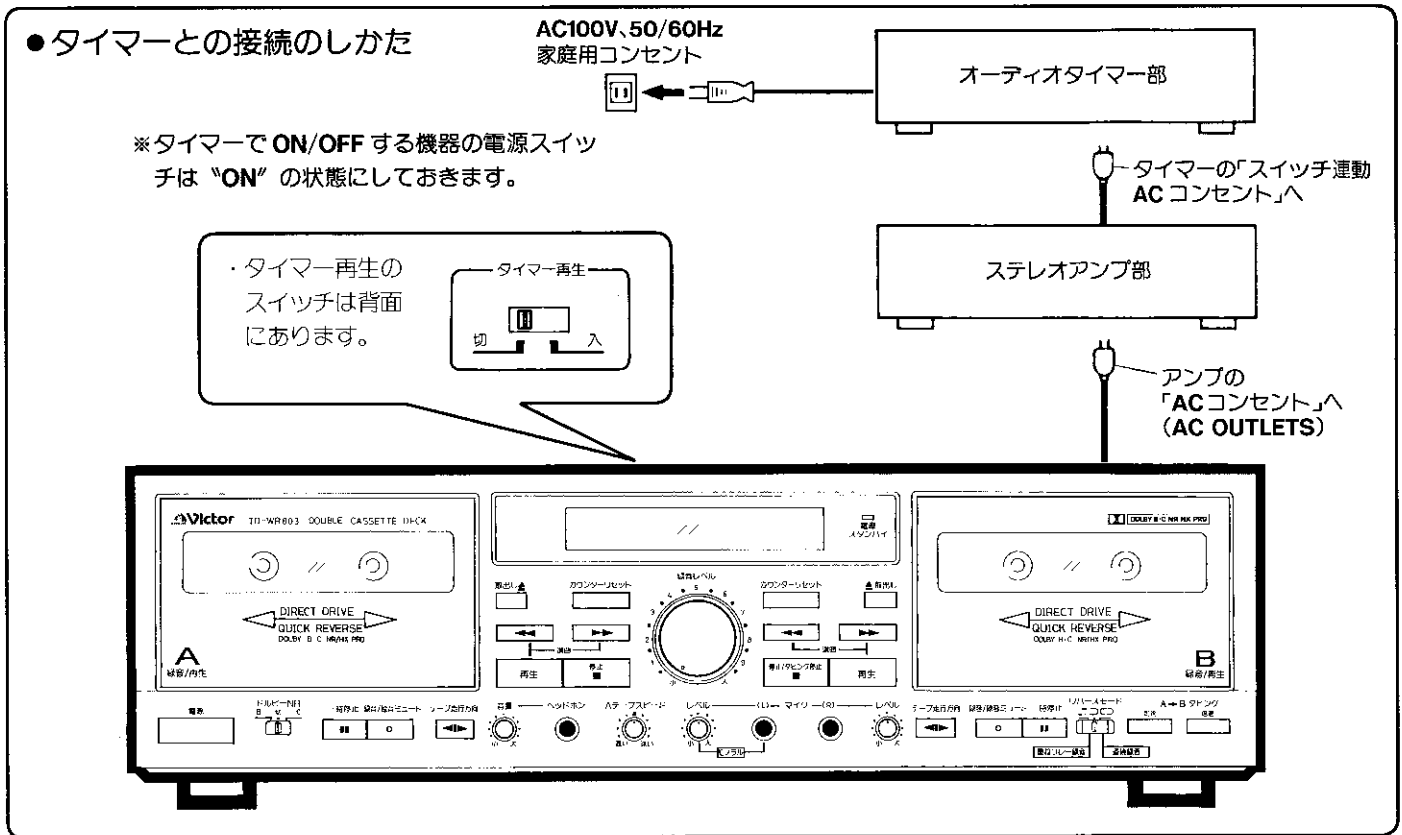
デッキAの ■ (停止)ボタンを押します。

- マイクの正しい使いかた
- ・マイクは口元から2～3cm位離して使しましょう。
- ・マイクを吹いたりたたくと故障の原因になりますのでやめましょう。

- スピーカーから「ピー」という音が出るときは、マイク音量を下げるかスピーカーから離して使います。

タイマー再生するには

- 市販のオーディオタイマーを使って、お好きな時刻に再生が楽しめます。
- お使いになる前に、タイマーの取扱説明書も併せてご覧ください。



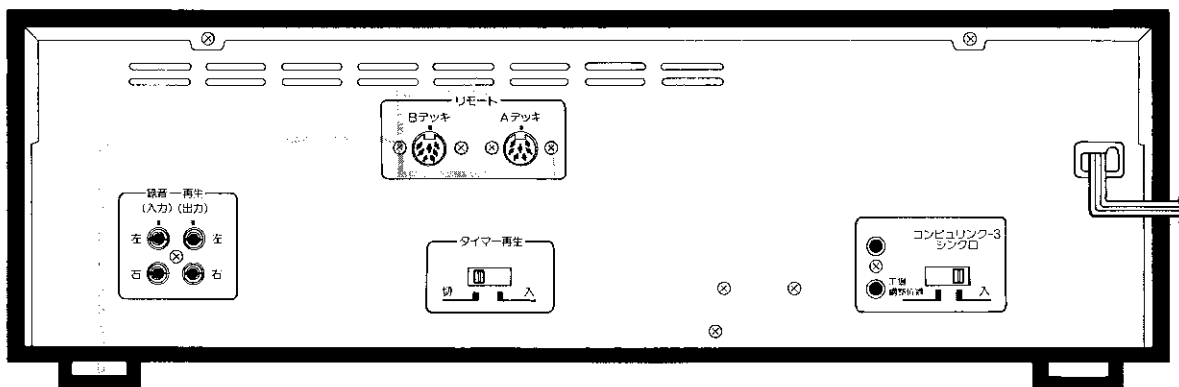
手 順	操 作
1 タイマーの操作	<ul style="list-style-type: none"> ●タイマーに接続した機器の電源スイッチが、すべて「ON」になっているか確認します。 ●タイマーを操作して各機器の電源を入れます。
2 アンプの操作	<ul style="list-style-type: none"> ●アンプの音量を調節します。 ●テープ再生のモードにします。
3 テッキの操作	<ul style="list-style-type: none"> ●聞きたいテープを入れ、再生のための操作を（テッキA・Bにテープを入れ、リバースモードをCにし）ておくとテッキB→テッキAの連続再生ができます
4 タイマーの操作	<ul style="list-style-type: none"> ●タイマーを操作し、再生の開始時刻と、終了時刻を予約します。 ●接続した各機器の電源が切れたことを確認します。
5 テッキの操作	<ul style="list-style-type: none"> ●タイマー再生スイッチを「入」にします。 <div style="text-align: center;"> <p>タイマー再生 切 入</p> <p>⋮</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●タイマーの開始時刻になると「再生」がスタートします。

■タイマー再生は、テッキBが優先して動作します。
ただし、テッキAにのみテープが入っているときは、テッキAが動作します。

■タイマー再生を使用しないときは、タイマー再生スイッチを「切」にしておいてください。
■タイマーで電源が切れると、カウンター数字は 0.00 にリセットされます。

リモート端子について

- このリモート端子を利用すると、外部に設置したリモートコントロール用スイッチで録音、再生、早巻き、一時停止およびテープ走行方向の切換えがリモート操作できます。



(リモコンのプラグはUタイプに限り使えます)

・リモート端子とその機能 (テツキ A・Bとも同じ)

端子番号	機 能
①	停止 (■)
②	アース (GND)
③	再生
④	一時停止 (II)
⑤	早巻き (▶▶)
⑥	早巻き (◀◀)
⑦	録音/録音ミュート (○)
⑧	テープ走行方向 (◀▶)

●リモートコントロール用のスイッチは…

各端子と②アース(GND)端子を接続することで、その間接続した端子のカセット操作ボタンが押されたのと同じ状態にします。スイッチは**1秒程度 ON**になるようにしてください。

・②アース(GND)端子以外は、開放状態で**DC 5V** を出力しています。アース端子と接続したときは、最大で約**1mA** の電流が流れます。

*リモート端子を利用するときは……
ピクチャーサービス窓口にお問い合わせください。

タイマー再生するには
リモート端子について

お手入れのしかた

ヘッド部の清掃について

ヘッド部とキャプスタン、ピンチローラーは常にテープが接触して走りますから、磁粉やゴミ、ホコリなどが付着してよごれてきます。よごれがひどくなると

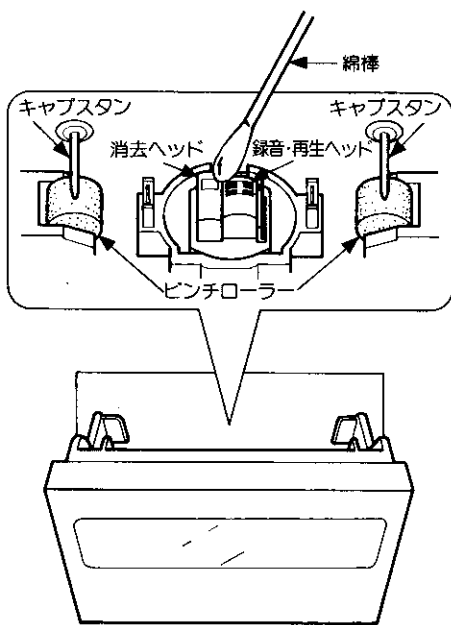
- 音質が悪い。
- 音が小さい。
- 録音ができない。
- 前の音が消えないで残る。



などの症状がでます。大切な録音を失敗しないためにも、症状がでてくる前に、定期的（約10時間使うごと）にヘッド部を清掃することをおすすめします。

●清掃のしかた

ヘッドクリーナー（綿棒）に無水アルコールをしみ込ませて、ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーなどのよごれをふきとります。



なお、別売りのクリーニングキット（CK-1A型）はクリーナー液・綿棒などがセットになっていますので清掃に便利です。この場合、内部についたアルコールなどが十分に乾いてからカセットテープを入れてください。

ヘッドの消磁

長い間本機を使っていると、テープのあたる金属部分が磁気を帯びることがあります。またヘッド部に磁気を帯びた金属（ドライパーなど）を近づけますと同じような支障が起こります。ヘッド部が磁化されると「サー」という雑音が入ったり、大切な録音済みテープの高音が消されたりします。

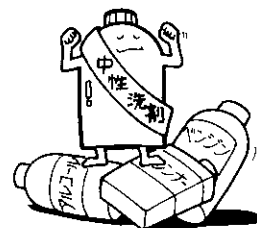
ヘッドや、テープのあたる金属部は、市販のヘッド消磁器で20～30時間使うごとに消磁してください。

本機はカセットタイプの消磁器もお使いになれます。この場合、アンプの音量つまみは絞ってください。音量つまみを絞らずにお使いになりますとアンプやスピーカーに悪影響を与えることがあります。

詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。

キャビネットの清掃

キャビネットがよごれたら中性洗剤などでよごれを落とし、かわいた布でふき取ります。シンナーやベンジンなどでふきまますと、「ひび割れ」や「変色」を起こすことがありますので使用しないでください。



■キャビネット等の清掃に化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってお使いください。

こんなときは

カセットデッキの具合が悪いとき故障かな?と思ったら……

修理を依頼される前に、まず次の項目をお確かめください。

それでも直らないときは故障によることが考えられますので、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口までご連絡ください。

症 状	原 因	処 置	参 照 ページ
録音ができない。	・カセットのツメ(誤消去防止用)が折られている。	・テープを交換するか、録音内容を消してもよい場合はツメの穴をゼロハンテープでふさぐ。	11
	・録音レベル調節つまみが絞ってある。	・適度なレベルに調節する。	11
テープが走行しない。	・II(一時停止)ボタンが押されている。	・再生ボタンを押して一時停止を解除する。	5
テープは走行するが再生音がでない。	・ピンコードが正しく接続されていない。 ・コンピューリングのコードが外れている。 ・アンプの音量つまみが最小になっている。	・奥までしっかり差し込む。 ・正しく接続する。 ・適当な音量に調節する。	6
ミュージックスキャン(自動選曲)がうまく動作しない。	・曲間のブランクが短すぎる(3秒以下)。またはブランク部分に雑音が多い。	・テープを交換してみる。	9
音が小さい。 音がふるえたり途切れる。	・ヘッドやピンチローラー、キャプスタンが汚れている。	・クリーニングする。	21
サーという雑音が聞こえる。 高音が消される。	・ヘッドが磁化されている。 (録音・再生ヘッド)	・ヘッドを消磁する。	21
前の録音が消えないで残る。	・消去ヘッドが汚れている。	・消去ヘッドをクリーニングする。	21
音質が良くない。 (高音がでない。)	<small>ノイズリダクション</small> ・NRのモード設定が違う。	・録音時のモードに合わせて再生する。	10
雑音(ハム音)がでる。	・デッキをアンプの上または下にじかに置いている。	・アンプから離して設置する。	6

本機の実作について

本機はマイクロコンピューターの働きて、多くの動作を行なっております。各項目の説明文・注意文を、よくお読みになって正しくお使いください。

操作によっては正常な動作をしないことがあります。このようなときは一度電源コードをコンセントから抜いておき、しばらくして再び電源を入れると正しく動作します。

- ・大切な録音の場合は、必ず事前に試し録音をして正常に録音されているかお確かめください。
- ・万一、本機およびカセットテープなどの不具合により、正常に録音されなかったり、再生できなくなった場合、その内容の補償についてはご容赦ください。

■本機を極端に寒い所から暖かい場所へ急に移したとき、正常に動作しないことがあります。これは本機の内部に露(つゆ)が発生したためで、数時間しますと正常にもどります。

保証とアフターサービス (必ずお読みください)

保証書 (別添)

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間
お買い上げの日から1年間

補修用性能部品の最低保有期間

ダブルカセットデッキの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

この期間は、通産省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。

修理を依頼されるときは

出張修理

18 ページの「こんなときは」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店またはビクターサービス窓口にご依頼ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	ダブルカセットデッキ
品番	TD-WR803
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
+	
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
+	
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

便利メモ

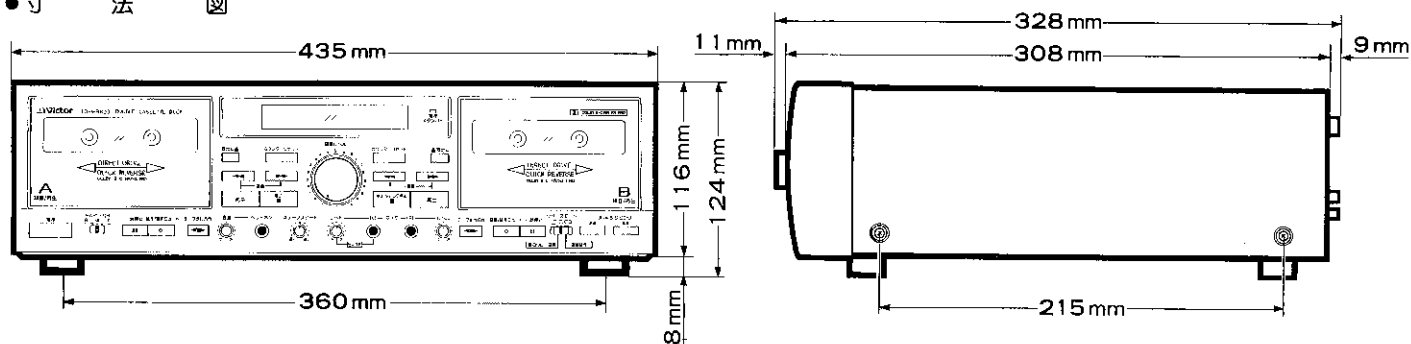
お買い上げ店名 ☎ () -

■保守・点検
本機の性能を維持するため、長時間連続してお使いになる場合、およそ1年使用をめぐり「保守・定期点検」を受けることをお勧めします。なおこの時間は使用環境(温度、湿度、ホコリ)等に左右されます。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

主な仕様

— 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。—

- トラック方式: コンパクト カセット・ステレオ
- ヘッド: 消去(2ギャップフェライト)×1 } コンビネーション デッキA・B共
録音/再生(メタパーム)×1
- モーター: キャブスタン用(パルスサーボDD)×1 } デッキA・B共
リール用(DC)×1
メカニズム駆動用(DC)×1
- テープ速度: 4.8cm/秒(定速時)、Aテープスピード調節つまみ中央位置
9.5cm/秒(倍速時)
- ワウ・フラッター: *±0.1%W・Peak
0.045%WRMS
- 早巻時間: 約110秒(C-60)
- 周波数特性: メタルテープ: *30Hz~16,000Hz±3dB
(-20dB録音) ハイポジションテープ: *30Hz~15,000Hz±3dB
ノーマルテープ: *30Hz~15,000Hz±3dB
- 周波数範囲: メタルテープ: *20Hz~17,000Hz
(-20dB録音) ハイポジションテープ: *20Hz~16,000Hz
ノーマルテープ: *20Hz~16,000Hz
- S/N比: *54dB(WTD、メタルテープ)
58dB(A、WTD、315Hz、3%3次高調波ひずみ率、メタルテープ)
DOLBY B NR ON時 1kHzで5dB、5kHz以上で10dB向上
DOLBY C NR ON時 500Hzで約15dB、1kHz~10kHzで最大20dB向上、
MOL改善効果 10kHzで4dB向上
- ひずみ率: 0.8%(315Hz、0VU、3次高調波ひずみ率、メタルテープ)
- チャンネルセパレーション: 40dB(1kHz)
- クロストーク: 60dB(1kHz)
- 入力端子: マイク(×2) : 0.4mV(0VU、適合インピーダンス600Ω~10kΩ)、-68dBV
ライン入力(×1系統): 80mV(0VU、入力インピーダンス50kΩ)
- 出力端子: ライン出力(×1系統): 300mV(0VU、出力インピーダンス5kΩ)
ヘッドホン(×1) : 0~1mW/8Ω(0VU、適合インピーダンス8Ω~1kΩ)
- その他の端子: コンピュリンク3/シンク口(×2): 弊社のCDプレーヤーとシンク口録音可能
リモート(×2)
- 電源: AC100V、50/60Hz共用
- 消費電力: 24W(⊕電気用品取締法基準)、電源「スタンバイ(切)」時4.5W
- 重量: 約5.4kg
- 寸法図



付属品

- ・ピンコード……………2
- ・リモートワイヤー………1

●*印は日本電子機械工業会(EIAJ)規格に定められた測定方法による数値です。



お客様ご相談センター

〒113 東京都文京区本郷三丁目14番7号 ビクター本郷ビル 電話 (03) 5684-9311

〒543 大阪市天王寺区小橋町10番16号 大阪ビクタービル 電話 (06) 765-4161

オーディオ事業部

〒371 群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1

電話 (0272) 51-4231(大代表)

VNG2332-001
1193(S)